様式

令和7年度補助系統別事業評価票（伊良湖本線（渥美病院田原駅前保美）線）

田原市

1．補助系統の概要(△)

系統名		運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖本線（渥美病院田原駅前保美）		豊鉄バス㈱	豊鉄バス㈱	渥美病院～保美	20.5 km	6.9 回	田原市（旧渥美町） 0 0 0
細系統	江比間経由	〃	〃	渥美病院～保美	20.5 km	4.4 回	
細系統	江比間経由	〃	〃	田原駅前～保美	19.3 km	2.4 回	
細系統					km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)

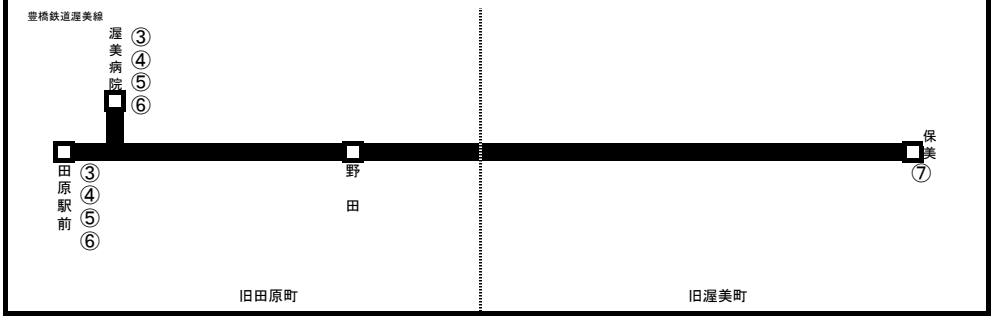
＜接続する系統＞

豊橋鉄道渥美線

＜接続される系統＞

田原市ぐるりんバス（③市街地線、④童浦線、⑤サンテパルク線）、田原市ぐるりんミニバス（⑥表浜線、⑦中山線）

模式図(△□)



2．R7年度の運行状況

事業実施の適切性

計画どおり運行されたか(△)

評価	計画どおりか。そうでない場合は理由
A	補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。

評価の基準＜事業実施の適切性＞
A：事業計画どおりの運行回数が確保されている場合
B：車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休（一部区間の運休を含む）が生じた場合

評価の基準＜目標・効果達成状況＞
A：年間目標利用者数を達成できた場合
B1：年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合
B2：年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合
C：年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合

《参考数値》 主要指標の推移(△)

年度		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
年間利用者数【人】		63,045	49,525	56,637	53,344	51,407
平均乗車密度（実績）		4.9	3.7	4.0	4.0	3.3
輸送量	（計画）	45.9	25.2	34.3	23.8	25.2
輸送量	（実績）	34.3	25.5	27.6	27.6	22.7
収支率（実績）		72.1%	52.0%	53.5%	55.2%	44.6%

目標・効果達成状況

評価	目標の達成状況(△)	
B1	目標	60,691
	実績	51,407
	達成率	84.7%
	要因	定期利用の減少

運営主体の所見、理由分析、認識(△)

利用者数は対目標値84.7%、対前年96.3%となった。他系統も含めた伊良湖本線全体では、前年に対して定期は87.8%、定期外は101.3%となり、定期外利用者が増加していることから、通院や買い物等の普段使いの利用者にご利用いただけていると考える。

運行事業者の所見等(△)

市町村の所見、理由分析、認識(□)

市町村名：田原市（旧渥美町）	市町村名：0
新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が大きく減少していたが、通院や買い物利用の高齢者や外国人住民等の定期外利用者が戻ってきている。近年、増加傾向であるがコロナ禍以前には戻っていない。	
市町村名：0	市町村名：0

複数市町村を跨ぐ系統としての役割

指標(市町村を跨いでの利用)		利用状況及び所見(△)
市町村を跨ぐ利用者数(△)	3,300 人/月	旧町を跨いでの利用が利用者の多くを占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や、成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。
全利用者に占める率(△)	56.7 %	
特記事項	合併前の田原町、渥美町を跨ぐ利用者と率。推定値。	

住民の利用状況(□)

市町村名：田原市（旧渥美町）	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0
・朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。 ・日中は高齢者の渥美病院等への通院や外国人住民の田原市街地での買い物で利用されている。			

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報

運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)

3. R7年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
A	事業評価を踏まえた取組	・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシのPR。 ・観光客向けに、便利でお得な企画切符(デジタルチケット)の造成	市町村名：田原市(旧渥美町) ・市内高校生への通学定期券の購入助成を継続実施 ・多言語チラシ配架(3か国追加　計5か国語)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0
改善点とした事項(△) 事業者、市、地元自治会等が連携し利用促進に努める。						
関係者の連携等(△□) 必要な情報交換を実施。	その他の取組	東三河地域公共交通活性化協議会と連携し、夏休み小学生50円パスを実施。	・パンフレットの作成、配布(全戸配布用・学生用) ・福祉回数券等の交付 ・免許返納者へ豊鉄バス元気パス(1年)引換券の交付 ・東三河地域公共交通活性化協議会連携事業実施 ・広報紙・イベント等でPR			

4. 今後の課題

課題と認識している事項					
運営主体(△)	沿線市町村(□)				
この路線は、通学利用者が多くを占めており、沿線にある高校の学生数が減少しているため、年々、利用者が減少傾向になっていると感じている。関係市や関係機関と連携したPRが必要。	市町村名：田原市(旧渥美町) ・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いため運賃が高額。	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0	
運行事業者(△)					

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組					
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
R8年度、R9年度に行う取組	・観光客向けに、便利でお得な企画切符の造成 ・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシや利用促進パンフレットの配布 ・令和6年度末(R7.3)に導入した交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る	市町村名：田原市(旧渥美町) ・市内高校生への通学定期券購入助成(令和元年9月～)を継続して実施する。助成額を3割から5割に増額した。(令和7年4月～) ・中学生・高校生対象の利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。 ・期間限定の観光地までの路線延伸 ・サイクルラックバス実証実験の実施 ・支線沿いの地域住民等と意見交換	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況に関しての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)			
	市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0
目標	伊良湖本線の利用者数 R15:23.2万人(基準値R4:16.7万			
自己評価	基準値の令和4年より上回っているが、目標までは達していない。			

7.補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)			
市町村名：田原市(旧渥美町)	市町村名：0	市町村名：0	市町村名：0
渥美病院・田原駅・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、令和6年度の利用者実績は114,092人となっている。			

通信欄　(この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。)

※マクロを用いて集計しますので、セルの結合は絶対に変えないでください